



ダンス部
[ウージーリング]

大阪府立狭山高等学校

U-ZY:RING

大阪狭山市には、高等学校は公・私を合わせて大阪府立狭山高等学校1校しかありません。学園都市を謳う大阪狭山市としては少し淋しいのですが、1校だからこそ充実しています。カリキュラム満足度70%、キャリア教育満足度80%、学校生活満足度80%、部活動満足度75%、更にアクティブ・ラーニング型授業から「さやまスタンダード」として、狭山高生としての必要なルールの徹底まで、優れた学びの環境の中で元気いっぱい部活動を展開する狭山高校ダンス部を特集します。



今まで、中学や高校の文化部の部活動といえば吹奏楽・合唱・軽音楽と音楽関係の部活が中心でしたが、最近はダンス部の活動が目立ってきています。大学の音楽学科でもダンス専攻のクラスを新設する他、プロのジャンルでもダンスの活性化が進んでいます。隣接する堺市の登美丘高校のダンスチームが、NHKの紅白歌合戦に出場し話題を呼びましたが、今回の特集はそうした時流に乗ったものではなく、創部17年になるこの部の一貫したダンス創りに感銘を受けたからです。

AGUAが取材をお願いしたのは、1月31日大寒の真只中でした。校門から長いアプローチを経て校舎に着くと、受付に顧問の田中秀憲先生が迎えて下さりました。先生に案内されたダンス部の稽古場は、4階の一教室でした。考えていたダンス部の稽古場というイメージと大違い。教室に入ると机・椅子は前後の壁際にまとめられ、その上が衣装や持ち道具の置場となり教卓の上に小さなカセットレコーダーが1台乗っかっていて、それが音楽再生装置。午後1時練習開始。集まってくれたのは今春卒業する3年生のメンバー10名余り。彼女たちはもうすでに

チームを離れているのだが、田中先生が特別に呼んで下さり、ダンスを見て貰う。まず簡単なストレッチと準備運動の後、1曲踊って貰うことになる。取材カメラが欲しいアングルを注文すると、すぐに2〜3種類のフォーメーションを作ってくれる。息の合ったアンサンブルは卒業されるのもったいないと思う程。練習着の背にチーム名の文字、U・Z・Y・RINGと描かれているが意味が分からず聞いてみると、U・ZY(ウージー)とはロシア語で「絆・きずな」の意味で、一人ひとりの同志の絆がRINGと繋がっている、大きな輪になることを示していると話してくれました。大切なのはチームワーク。いくら一人ひとりが優れていても、勝手に踊っている美しいアンサンブルにならないと云うことを常に意識するという教訓でもあるのでしよう。3年生のデモンストレーションはそれで終わり、次は2年生以下の授業が終わる3時半まで待つことになりました。その間に田中先生からこのチームの練習方法を教えていただきました。それは驚きでした。狭山高校のダンス部は、基礎練習以外、選曲、振り付け、マッチングまで全て生徒の力で

